

『カルト掲示裁判』に関する J R 東海ユニオン情報を糾弾する！

2006年12月某日、J R 東海沼津運輸区の J R 東海ユニオン組合掲示板に奇妙な掲示物が掲出された。掲示板の中央に、ただ一枚それが貼られているのである。「カルト集団の信徒が沼津運輸区に！？」これを読んだ社員は、「なんだこのくだらねえ掲示は？どうせまた海労の・・・さんの中傷したビラだろ。役員はもうちっとまともなことをやれっつーの」とつぶやいたとか？

折しも、『週刊現代』で J R 東労組や松崎明氏をターゲットにしたネガティブキャンペーンが24週にもわたる連載記事で展開されていたところである。ユニオンの掲示物は読んでみれば、その記事をもとネタにして造られていることは明らかだった。そして、J R 東海労の組合員を中傷する目的で造られたのであろうと察するのに充分だったのである。

ユニオンの組合員には、知らされていたらどうか？ J R 連合が大金を流し込んで、その『週刊現代』を買い支えていることを。また、記事が掲載された『週刊現代』そのものを連合関係の労働組合にも送りつけていることを。さらに、その記事は警察関係者から記者へ提供された資料にもとづいて書かれているということ。

多くのユニオン組合員は、掲示物が誰のことを中傷しているのか、実名が書かれていなくても容易に判るからといって、口に出して言う事はなかったに違いない。まさに破廉恥としかいいようのない行為だから。そう、それを平気でできる一部の組合員・役員を除いては。

まさに根拠のない資料＝「事件をデッチ上げるためのシナリオ」によって操られ踊らされたユニオンの一部の組合員・役員の行為を、多くのユニオン組合員はどんな眼でみつめているのだろうか。

われわれ J R 東海労の仲間が訴えたカルト掲示裁判は、裁判所の不当な判断と決定で斥けられた。J R 東海ユニオンはその機に乗じて、情報等で悪質な宣伝を展開してきている。訴えた東海労組合員を呼び捨てにし、さらに事実を歪曲した主張をしている。このような卑劣な行為を、われわれは断じて糾弾する！

3月5日『蒲郡駅事件』刑事裁判で検察側は、「加藤誠二さんが会社の内部資料を窃取してコピーして持ち出し J R 東海労本部に送った」として極めて悪質な行為だと「懲役10ヶ月」を求刑してきた。「窃盗は不可能」が明らかとなった管理者の証言や、証拠とはいえない証拠を無視した、会社の意そのままの論告求刑である。これまで、ユニオンは権力側に与した情報や宣伝を展開してきたが、さらに声高に叫び出すであろう。われわれは、そのような攻撃を許さない！！

われわれ J R 東海労静岡地方本部、及び沼津運輸区分会は、あらゆる妨害をはねのけ、職場からあたりまえの労働組合運動の発展をめざして奮闘するものである。

2009年3月6日

J R 東海労働組合静岡地方本部

J R 東海労働組合沼津運輸区分会